月潟村・味方村・中之口村三村海外研修事業

青柳 千恵子

アメリカ研修旅行を終えて

私達は、2回のミーティングを経て、この度のアメリカ研修に参加致しました。

村長さんからの言葉で、「村民を代表して」を背に負いながら、少しプレッシャーを感じつつのアメリカ大陸に向かっての テイクオフでした。私達を出迎えてくれたのは、さわやかな青空とハロウィーンの終わったばかりのカボチャ達が、スペイン風の家が立ち並ぶ玄関にすわり「Welcome」といかにもアメリカらしい光景でした。私達は、3ケ所の公式視察を取り入れた旅行でしたが、ユニバーサルスタジオやディズニーランドと観光的な訪問も出来た面も有り、随分楽しいものがありました。私はこの3ケ所について私なりに感想を書いてみようと思います。

まず、1ケ所目はワイナリー（ナパ）でした。角田浜のカーブドッチしか知らない私には、規模の大きさにまずびっくり、ワインを寝かすタルの大きさといい、個数、そして材質、これは赤杉を使用しているのだそうですが、後に家具としてリサイクルされるそうです。ここのワイナリーは家庭的で、歴史を売り物にしたビジネス。この他にもう1ケ所のワイナリーを訪れたのですが、そこは「ゴットファーザー」の映画監督のコッポラさんの経営するところで、ここでは商品その他のグッズをショーアップしたビジネスでした。女性の私には、ほしい、買いたいという気持ちが、ぞくぞくとして来ました。そしてこの様にそれぞれの特徴をいかしたワイナリーが、同じエリアの中に共存共栄し、その中にレールを敷き、レストラン列車を走らせるアイディアは、さすが!!

2番目に私達は、廃棄物を利用したエネルギー施設の訪問でした。ここははっきり言って、私達の一番興味の有る分野にもかかわらず、的を得ていない所でした。ここでの話は結論的に言えば、南カリフォルニアガス会社のリサイクルを売り物にしたビジネス商法を見せつけられた様でした。資源のリサイクルアイディアをここで学び、その生み出されたアイディア商品を売る為にデモンストレーションの場所貸しをしている施設でした。でもただひとつ感心した事が有ります。さすがアメリカ!!

それは、カリフォルニア州には数多くの油田の採掘跡が有るそうですが、その空洞を利用して、本業のガスをとなりのネバタ州から引き、貯蔵しているとの事。これは確かに、大きなリサイクルでした。ただ企業規模のリサイクルは、アイディア次第でいか様にでもなり、また、企業の利益へとつながりますが、他のリサイクルについては、時には住民と市町村とのコミュニティーが必要だったりすると思います。

▲ナパワイナリーにて

3番目にオンタリオミルズショッピングタウンでした。ここは、2時間のショッピングタイムのみでしたが、2時間ではまわりきれない規模のものでした。色々な種類の店舗が、通路をはさみ、両側に立ち並び、出入口が10ケ所に設けられ、中央にはファーストフード類のレストラン街と広場というスタイルで、初めての人にでも解りやすくなっており、ここでも広大なアメリカの規模を見せつけられました。でも狭い日本、土地のたかい日本、私達の村にとっては、どうやって取り入れられましょうか?でも、ただひとつ言える事は、規模はこれほどではなくても、とにかく子供は遊ぶ所が有り、家族で1日中楽しめる事。そして女性にとって安心してゆっくり買物が出来る町作り。それこそがこれからのビジネスだと感じました。私達主婦からしたら、休日は増える一方、なるべくお金は使わず家族で楽しむ事、でも女性はほしい物があれば必ず買ってしまいます。でもかんたんにはお金は使わない、きっとより良い物をより安くでないと……。

私は、この度の研修旅行を通じてビジネス面を見せられ、今後の経営のやり方など危機感さえ感じてしまいました。でも何と言っても、中之口村、味方村の方などとこの旅行で知り合いになれた事が一番プラスになった様な気がします。もしもこんな研修が続けられるのであれば、時には外国の家庭に1週間位のホームステイの型が出来たらいいなと思います。なぜなら、外国の人々はひと口に言って生活の仕方がうまいし、ゆとりのある暮らしのセンスが有るのではないかと。そして物質的な欲望ではない、ゆとりです。または、反対に日本の良さを再認識するかも知れません。最後にこの様な企画をして下さった村役場の方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

笠原 満里子

私のアメリカ日記

今回の研修旅行で、私は生まれて初めてアメリカ本土に渡りました。噂に聞いていたとおり、現地の気候は温暖で、飛行機でのつらい長旅もなんのその。湿気もなくカラッと晴れた天気の中、私はしみじみと思いました。「新潟県人の内向的な性格は、じめじめとして雨ばかり降っている気候からつくられたのかな」と。常に太陽が私達を照らしていてくれれば、アメリカに住んでいる人達のように、もっとオープンで、明るく人々に接することができるのではないでしょうか。そんなふうに感じながら、私のアメリカ研修旅行はスタートしました。まず最初に私の目にとびこんできた風景が、ツインピークスという双子の山の頂上から望んだサンフランシスコの住宅街でした。日本の城下町のようにきちんと区画整理がなされていて、それぞれの家が実に個性的でかわいらしく、まるでミニチュアの広場を見ているようでした。その後に向かったゴールデンゲートブリッジでは、以前、連邦刑務所であったといわれるアルカトラスト島を遠くに眺め、「この海はアラスカ海流が流れ込んでいる為、水が冷たく、囚人達は脱獄することができなかった」とガイドさんから説明を受けました。あの有名な、アル・カポネも投獄されていたと聞き、ぜひ島の方へ渡りたかったのですが、スケジュールの都合上、その願いは叶いませんでした。翌日には、期待していた視察の一つ。ナパバレーのワイン農園を訪問し、日本とは違う育て方をしているぶどう畑を見ることができました。ワイン通の友人に聞いたところによると、ナパで造られるワインはカリフォルニアワインの中でも特に有名らしく、実際、何種類かのワインを試飲させてもらいましたが、あまりワインに詳しくない私でも納得できるほど、とても深みのある味わいでした。ぶどうの収穫時期が終わっていた為、ワイン造りの工程は見学することができませんでしたが、工場内の巨大なワイン樽を見ることができ、大変驚きました。そして、もう一つ私が期待していた視察がロサンゼルスでのスケジュールに組み込まれていました。閉鎖され古くなったガス会社の建物を利用して造られたエネルギー施設との説明を受けましたが、この施設は旅行前に聞いていた「ゴミ処理場」とはまるで違っていたので、私は事前に考えておいた質問ができず期待外れでした。今現在、日本で騒がれているダイオキシン問題について、アメリカではどのように対処しているのか、ぜひ聞きたいと思い、自分なりに少し勉強もしておいたつもりでしたが、この施設は根本的に意図が違っていて、廃棄物となった鉄板やパイプ等を再利用して造った一種のカルチャーセンターのような建物でした。私はアメリカの一歩進んだ技術を見ることができなかったので、とても残念に思っています。

▲「ユニバーサルスタジオ」にて
映画のワンシーンに飛び込みました。

その気持ちを切りかえて向かった先は、本場ハリウッドのテーマパーク「ユニバーサルスタジオ」でした。映画の撮影スタジオやセットを遊園地感覚で楽しめるというので、様々な臨場感あふれるアトラクションを体験しました。特に「ウォーターワールド」という湖のようなプールでのショーは、水しぶきが飛んで来たり、火柱が上がったりで迫力満点でした。最後に向かった所は、もう一つのテーマパーク「ディズニーランド」です。規模は東京より小さかったものの、混雑がないおかげでたくさんのアトラクションを体験することができ、非常に有意義な時間を過ごすことができました。待ち時間中に、かわいい男の子を連れていたアメリカ人のお父さんと、ほんの少しだけ、英会話でコミュニケーションがとれたのも、私が少しずつ「アメリカ」という国に慣れ、余裕ができたからかもしれません。声をかけてくれた2人に、私は大感激でした。

こうして、私はすっかりアメリカ人になった気分で帰国し、しばらくの間時差ボケで睡眠不足に悩まされましたが、研修旅行を終えた今でも、自分の勉強不足が原因で後悔しているところが1つだけありました。それは何と言っても言葉の行き違いです。私の場合、相手の言葉を聞いて内容を理解することが少しできるだけで、こちらからあまり答えることができず、つい苦笑い…という具合でした。今回の研修旅行ではルームメートのWさんが英会話に長けていたおかげで、私はなんとか切り抜けることができました。もしこの先、もう一度アメリカに行くチャンスがあったなら、今回以上にスマートに英会話をこなせるよう努力しようと思っています。

こんな私に勉強する意欲と機会を与えてくれた周りのみなさんのあたたかな気持ちに感謝の意を表したいと思います。本当にありがとうございました。

※今月号で平成10年度三村海外研修事業の報告は終了します。